

Marin Marais に関する現地調査（第4報）

志水哲雄

今回は、Marin Marais が書き残した Sonnerie de Ste. Geneviève de Mont de Paris に特に関連の深い諸施設に焦点を絞っての調査を報告する。

Panthéon, Sainte. Geneviève 教会, Saint. Etienne 教会, Lycée Henri IV 等の歴史的な変遷, 政治や社会との関わりには, 音楽を離れても興味がつきることはない。またこれらは, それぞれよく知られていることで現代のバリの街の中にとけこんでいるものではあるが, Marin Marais, および Sonnerie de Ste. Geneviève de Mont de Paris というキーワード通して新たなつながりが見えてくる。

たびたびパリを訪れ, Panthéon, Sainte. Etienne 教会, の付近を徘徊し建物をつらつら眺めているうちに, ふと幾つかの疑問が浮かんできた。

I. 二つの塔 = Sainte. Etienne 教会と Lycée Henri IV にある塔

写真1は Saint. Etienne 教会と Lycée Henri IV, およびその間を抜ける Rue Clovis の現在の姿である。17世紀に描かれた図1, 2のイラスト, 地図とを見比べてみると, その変貌がよく分かる。Sainte. Geneviève と Saint. Etienne の二つの教会は隙間無く並んで建っていた。

図2にあるように, 壮大な Sainte. Geneviève の僧院の一角にあった Sainte. Geneviève 教会を Louis XV は, 自分の病気の快癒に感謝して, 新しく建て替えるよう指示した。場所は僧院の中, 現在の Panthéon が在る場所である。

本来は, 新 Sainte. Geneviève 教会として1756年建築が始まり, 1790年頃に完成したが, 時代はフランス革命に突入。新教会は偉人廟として国の施設に移管され, Panthéon となった。

現在見ることでできる風景は, 写真1のように Sainte. Geneviève 教会が取り払われ Rue Clovis があらたに通り, Lycée Henri IV が存在する。古い教会は取り壊されたので, Marais, M がインスピレーションを得た「鐘」も当然のことながら消失したと思っていた。

たびたび現地を訪れ, 写真をいろいろな角度から撮って眺めたり, 図2の Turgot の地図を眺めているうちに, 現在パリの人たちに Tour Clovis として知られている Lycée Henri IV の中



写真1 現在の Saint-Etienne 教会と Lycée Henri IV。その間の通りが Rue Clovis。



図1 17世紀に描かれた両教会のイラスト。両教会の因縁は深そうで、Saite. Genevièveの聖枢は、現在 Saint-Etienne 教会の中に置かれており、カソリックの聖地の一つになっている。

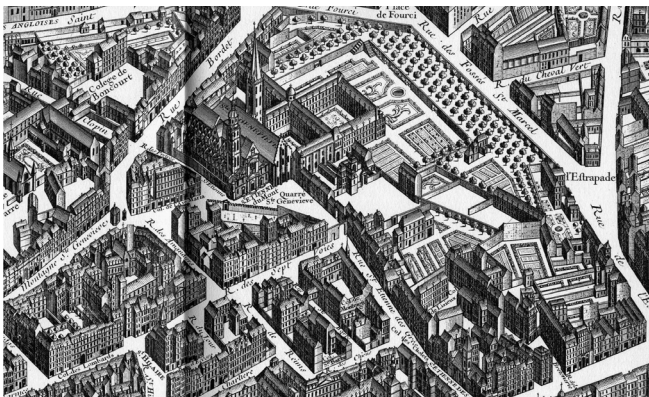


図2 パリの古地図(Turgot 1737年)



写真2 Lycée Henri IVの中にある Tour Clovis

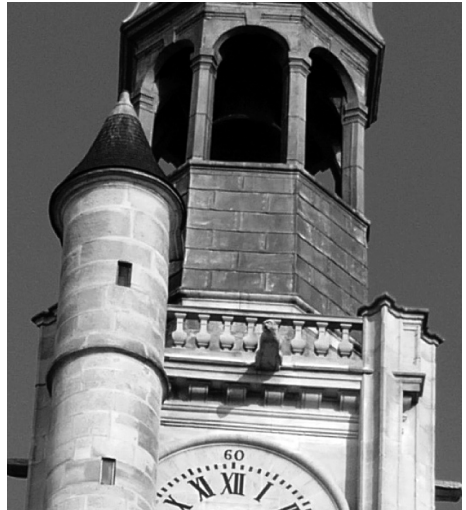


写真3 Saint-Etienne 教会の塔

にある塔は Sainte. Geneviève 教会の塔がそのまま残ったのではないかと確信するに至った。

17世紀に描かれたイラスト（図1）と Turgot の地図（図2），さらに現在の写真（写真1，2，3）を基に，Saint. Etienne 教会（現存）にある塔と，Lycée Henri IVにある塔を詳しく比較してみる。

今は無い Sainte. Geneviève 教会もイラストを見ると高い塔屋があり，それは Saint. Etienne 教会よりも高いと思われる。その形は Saint. Etienne 教会の丸い形に比べ，Sainte. Geneviève 教会のそれは，より尖がっている。おそらく筆者が探している「鐘」がその中に吊るされていたのだろう。

両方の塔とも正方形で，外側に円筒形の階段部分がある。まるで現代の宇宙ロケット発射台のように見える。使われている素材の石はよく似た色合いを持ち，同じサイズ・同じ積み方のように見える。まるで双子のようでさえある。積み上げた石の最上部の様式もよく似ているが，一方ではひょうたん型の装飾があり，一方では木の枝風のデザインとなっていて，趣を異にしている。

窓に目を向けてみる。どちらの塔も1面に2列並びで5段の跳ね上げ式ガラス窓が使用されている。ただし Saint. Etienne 教会の方は1層だが，Lycée Henri IVの方は2層である。これは，Saint. Etienne 教会の方には塔の最上部に大きな時計が場所を取っており，さらに塔自体が教会の屋根に食い込んでいるからであろう。

一方，Lycée Henri IVの塔は小さな時計なので場所を取らないし，図2でもわかるように，教会の建物にくっついてはいるが，中に食い込んではいないので，2層が可能になったのであろう。

両方の塔の窓枠もよく似ており，2重の縁取りもそっくりだが，最上部が少し違う。Saint. Etienne 教会の方は円形であるのに対して，Lycée Henri IVの方は尖りがある。



写真4 Panthéonnの展望台から見下ろした Saint. Etienne 教会の塔と、Tour Clovis および Lycée Henri IVの校舎の一部

現在でも Saint. Etienne 教会では、石積みの建物の上に塔屋として高い屋根を持ち、大きな鐘が吊るされているのが見られる。屋根の形は丸みを帯びている。図2に見られるような、現在見られる Lycée Henri IVの塔には鋭く尖った高い塔屋は無く、低い屋根が乗っているが、その屋根は真下からは見えず、ちょっと遠くからでないとわからない。

新 Sainte. Geneviève 教会は現在の Panthéon の場所に新築されたので、古い教会の部分は取り壊され、その跡地にあらたに始まった Lycée Henri IVのための校舎の一部が道路に面してあらたに建てられ、新しい道路ができた。それが Rue Clovis である。

写真1, 2, 3, 4や図1, 2などの位置関係から判断して、なぜか塔自体は壊されもせず、移転も無く、そのままの場所にあり、それを取り込む形で Lycée Henri IVが形成されたのであろう。

ただし、教会としての「鐘」のための塔は必要でなくなったので、高い塔屋は取り払われ低い屋根に変えられたと思われる。すなわち現在 Lycée Henri IVの中にある Tour Clovis（パリの人たちはこう呼んでいる）こそ、筆者が探し求めていたところの Marais, M が作曲した「Sonnerie de Eglise de Sainte. Geneviève de Mont de Paris」に描かれた「鐘」が吊るされていた塔（教会は無くなったが）であるというのが筆者の推測である。「鐘」そのものは残っているのか残っていないのかまだ確認できていない。

II. Lycée Henri IVと Sainte. Geneviève 教会

Panthéon や、Saint. Etienne 教会を調べているうちに、そのエリアにあっていつも目に入る Lycée Henri IVが気になっていた。この学校はいつ建ったのだろうか？ いろいろな資料を見



写真5 Panthéonの反対側から見たLycée Henri IVとRue Clovis。後方はPanthéonのドーム



写真6 Panthéon側から見たLycée Henri IVとその前を通るRue Clovis



写真7 PanthéonおよびRue Clovis側から見たLycée Henri IV。通りに面した校舎の部分が様式的にも違うことが見てとれる。



写真8 Panthéon側に面したLycée Henri IV

でも、また同校のホームページを見ても、1796年に学校が始まったとは記されているが、校舎を建てたとは記されていない。

フランスでも有名なこの学校の来歴に関して、同校のホームページを参照してみる。Panthéonが時の政治に振り回され、国の施設になったり、カトリックの聖堂にもどされたりと、揺れ動いたように、アンリ4世高校の歴史も変化に富み、名門校であるがゆえに政治に翻弄されてきた。

1796年、École Centrale du Panthéonとして設立された。まさにフランス革命の直後である。



図3 17世紀のイラスト。僧院の建物と Sainte. Geneviève 教会。その横に Saint. Etienne 教会が建築中。

Louis 15世による Sainte. Geneviève 教会の建て替えであった新教会が、革命後、偉人廟として接収され、Panthéon となったのは、建物だけではなく一帯の僧院そのものが接収されたとみるのが妥当であろう。その地に学校が設立された。

しかし、まもなく1804年 Lycée Napoléon となる。いうまでもなくあのボナパルト・ナポレオンである。

ナポレオンが倒れると、1815年には Collège Henri IV とまた変わる。ここで初めて Henri IV の呼称がつく。次の王政復古の時代になると、再び1848年に Lycée Napoléon と変わり、その時代が終わると、1870年 Lycée Corneille, 1873年 Lycée Henri IV となり、その後は現在まで続いている。

Lycée Henri IV の校舎を Rue Clovis 側からも、Panthéon 側からも何度も眺めてみる。Rue Clovis に面した建物の部分だけが使用されている石材も石材の組み方も明らかに違っている。(写真1, 4, 5, 6)

まさに古 Sainte. Geneviève 教会が、取り壊された跡に付けたされた新校舎と新しい道路がぴったりとおさまる。

Panthéon 側から校舎を眺めているうちに写真7, 8に見られる窓の形が、図2, 3, 4とそっくりなのに目がいく。いや、同じではないか。1, 2階ぶち抜きの縦長で上部が円形の窓と、その上部の丸い装飾がある。それに連なる向って右側も3階建てで屋根裏部屋の窓までそのままであるように見える。前述のように、Rue Clovis に面した校舎の部分が、壁面の石材の色が違い、石の組み方、窓の形の様式など、明らかに違うのが見て取れる。(写真5, 6, 7, 8)

ある日、隣の Saint. Etienne 教会を訪れた時、受付のところの壁に写真9が貼ってあるのを見出して驚いた。1880年頃の Panthéon を中心とした教区となっている。すでに庭もしくは畑



図4 Lycée Henri IV。おそらく18世紀終盤か、19世紀初頭のイラストと思われる。Panthéonのドームが左側にあり、遠くに高い塔屋のなくなったTour Clovisとその奥に見えるのはSaint. Etienne教会の塔であろうか。手前にはまだ僧院時代と同じ庭、もしくは畑が見られる。

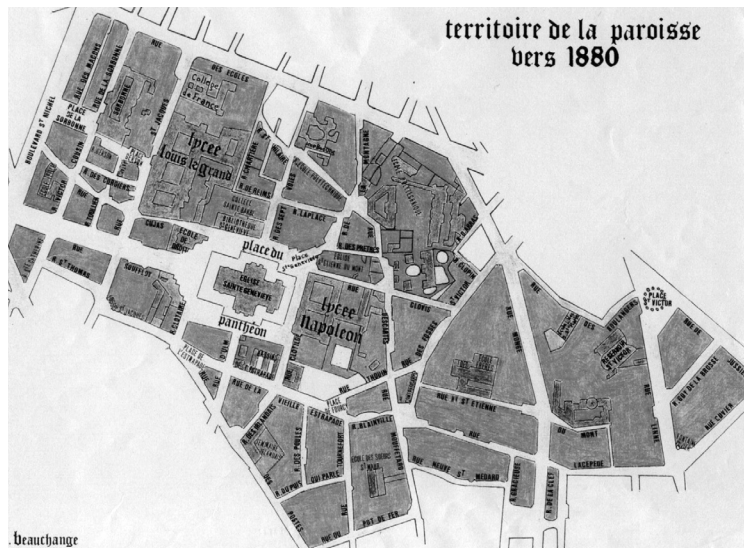


写真9 1880年頃のPanthéon付近の地図。Saint. Etienne教会の中にある受付のところの壁に貼ってあるものを写真に撮った。1880年と記されているが、Lycée Napoleon となっている。

は無くなり、市街化しており、ほぼ現在の地図に一致する。校名はLycée Napoleon となっており、注目すべきは、その校舎の形である。前掲のTurgotの地図に見られる僧院の建物とそっくりである。

つまり、この学校がÉcole Centrale du Panthéonとして始まった1796年に校舎を新築してのではなく、僧院の建物を転用したといえる。400年以上も経た建物が現在でも存在し使われていることに感慨をおぼえる。写真12は、Google Netで入手できるPanthéon付近の空撮である。

写真10は現在のPanthéonの展望台からLycée Henri IVを見下ろした写真である。建物の形



写真10 現在の Panthéon の展望
台から Lycée Henri IV を見
下ろす。



写真11 Lycée Henri IV の入口。
玄関というか入り口で、門
ではなく、扉がある。ちな
みに自転車置場もなく、道
路に設置されている、鉄柵
や、Panthéon の塀にくく
りつけたいものが多い。



写真12 Panthéon, Lycée Henri,
IV Saint. Etienne 教会（グ
ーグル写真より）。図2の
Turgot の地図のとおりで
ある。

がよくわかる。図1や写真9に見られる僧院の建物の形が、写真11で確認できる。

写真11は、Licee Henri IVの玄関（校門）である。「個人教授」という映画でもそうであったように、高校生が通学に使っている自転車が無造作に通り（Rue Clovis）の鉄柵や、Panthéonの鉄作の塀につないであった。

Ⅲ．今後の展望

自らの足で歩いて確かめてきた「鐘」にまつわる調査も、いろいろと判明してきた。単に全面的に消滅したと思っていた Sainte. Geneviève 教会が、実は Panthéon に変わっていた。ちなみに、Panthéon の壮大な内壁には、Sainte. Geneviève の生涯を物語る壁画が描かれている。

現在、Lycée Henri IV と呼ばれている高校は、僧院の建物を利用して校舎としていることは明らかである。「鐘」が吊るされていた塔だけは、そのまま現在もあるが、なぜ残されたか？「鐘」はどうなったのか？ 等々調査すべきとは多々ある。いよいよ文献や資料を探索し、裏づけを取ることが必要になってきた。